

《小学生から今日まで》

呉昭新 (Chiau-Shin NGO)

(2013 初出 ; 2019-4-19 補充)

私は昭和五年（1930）台湾で生まれました。生まれた時は日本人、15歳から外国人。昭和十三年（1938）の初冬、父（台北帝大東洋文学卒）の転勤（東方文化研究所、現京都大学人文科学研究所東方文化研究所）について京都に移り、そこで小学二年生に転入しました。二年・三年の担任の先生は西野歌子先生、四年生から六年生までは古館三徳先生でお二人ともひ弱い私をよく庇って下さいました。京都市左京区の北白川国民学校を昭和十八年（1943）三月卒業と同時に京都府立第一中学校に合格入学、入学後一ヶ月余りで父の再転勤（台北帝大南方人文研究所）のため退学、台湾台北に帰りました。そのころ日本は敗戦の色が見え始め、内台航路は危険にさらされ、高千穂丸はすでにアメリカの潜水艦によって撃沈されました。私の乗った大和丸は船団に組み込まれて駆逐艦護衛の下で三日間の内台航路を七日間かけて中国大陆沿岸を迂回してやっとキールン港に着きました。直ぐに中学に転入出来るものと思っていましたが、戦時船便の秘密厳守のため退学手続きもとれず、重ねて当時通信不便のため連絡もとりにくく、とうとう転入学できず一年遅れて昭和十九年四月当時の台北二中に再受験入学、一年もたたぬうちに米軍の爆撃が激しくなり二十年のはじめ台北近郊の景尾に一度疎開しましたが家のうらに500キロ爆弾が落下したため又あわてて台湾中部の員

林，私の生まれ故郷に疎開しました。八月故郷で終戦を迎える，十二月台北に戻りました。台北二中は成功中学と改名し、初中（中学校）と高中（高等学校）各三年に学制が変わり、私たちは中学二年に編入され、その上、学年の始まりが八月と変わったため又一年遅れることになりました。私はそこで中学と高校を卒業し、昭和二十五年（1950）八月に台湾大学（元台北帝大）の医学部に入学、医学部は七年制で昭和三十二年（1957）卒業、卒業後三年大学付属病院に勤務、その後いくつかの病院を転々と勤務先を変え、内科医師、医長、病院長と衛生署（厚生省）の国立予防医学研究所所長を最後に1993年公務員からリタイアしました。その間台湾で研究テーマを貰ってし1972年鹿児島大学の医学博士学位（論文博士）を授与されました。1943年日本を離れてから1972年に博士論文の口頭試問に再び来日するまで29年間日本にきた事はありませんでした。その後訪日の機会があれば必ず最後の一日は残して少年時代をすごした京都を訪れるこにしています。日本の47都道府県の内訪れた事のないのは沖縄と宮崎県だけで、北は利尻・礼文島から南は鹿児島の指宿まで二回以上訪れた所も幾か所があります。京都はもう何回行ったか忘れました。でも2015年8月二人の孫娘を伴に（伴われて）京都付近を回ったのを最後にもう移動が不便になり、その後は毎日只テレビとコンピュータとにらめっこをするのみ、外出は病院への定期検査だけ。正直のところ最後の京都行は空港では車椅子のサービスであまり感じませんでしたが、京都駅で電車を降りて改札口まで、その後駅内のホテ

ルまでが大変でした、姫 路城や宇治平等院まで足を運びましたが孫娘たちだけを中に入れ、老い二人は外の出店や院内の藤棚の下に座って待つだけでした、以前参観していますがそれでも寂しさは何とも言えません。必ず通らなければならぬ人生劇場の一コマ、やむを得ません。

私の俳句歴は 78 歳からです、 まだ俳句の小学生です、がやる以上は暇つぶしの言葉遊びではなく、俳句の真骨頂を会得したいです、それゆえ俳句の修行も医学の研究方法と同じような態度で模索しています（医学会での学術研究発表>100 回）,文系の俳人からあんたは俳句を高い空からつぶさに科学的研究をしているようだと言われました、おなじ道を歩いている方なら理解していただけるかも分かりません、ただ違うのは私は医学の道を 56 年歩いた後で歩き出した俳句への道、遅れ馳せながらついていくしかありません。よろしくお願ひいたします。